

フィリピン政府観光省後援事業
フィリピン チャレンジ プロジェクト
団体概要・事業説明
(案)



フィリピン チャレンジ プロジェクトは、ぼてぢゅう国際交流基金のサポート及び日本アジア振興財団の運営によって成り立っています。

団体概要

(1) プロジェクト理念

日本とフィリピンの交流を通じ、国際開発や国際交流に関心の高い、次世代の担い手の育成を推進します。

(2) 行動指針

国際社会で通用するキャリアデザインを助長し、両国における国際協力・交流を推進します。

医療分野・サービス分野を主とした国際開発について専門的に研究します。

活動を通して直面する両国の問題に取り組みます。

(3) 目的

医療（介護、看護を含む）・サービス業を中心とした「人と人」の交流・研修を行う事を目的とし、現地の医療現場やホテル・レストランなどのサービス業界の第一線でインターンシップ・研修を行います。また、現地で英語研修や学生交流を行い、次世代の国際人としての育成を行い、必要に応じて投資・貿易などを通じて両国の発展に寄与することを目的とします。

(4) 沿革

〔2014年5月〕日本アジア振興財団・栗田英人理事がフィリピン政府観光省のアラチェリ・C・ソリアーノ西日本代表との間で、「フィリピン共和国と日本の学生の交流を行う」という目的のもと「ぼてぢゅう国際交流基金」が発足。

〔5月〕フィリピン政府観光省と日本アジア振興財団との間でフィリピンにおけるプログラム設立と後援名義の許可が下りる。

〔6月〕ヒルトンホテル大阪で行われたフィリピンビジネスミッション2014に参加し、在大阪・神戸フィリピン共和国総領事館・総領事マリア・テレサ・L・タギアン氏と面談及び趣旨の説明を行う。

〔6月〕フィリピン チャレンジ プロジェクトが発足し、委員長に青木 豊彦氏が就任する。

(5) 役員

顧問:

委員長: 青木 豊彦 ((株)アオキ会長/大阪市立大学客員教授/和歌山大学客員教授)

副委員長: 栗田 英人 (ぼてぢゅうグループ・(株)東京フード代表取締役)

副委員長: 巖本 賢 ((株)巖本金属商事代表取締役)

委員長代理: 松岡 広隆 (前衆議院議員/芦屋大学客員教授)

学生委員長: 玉置 俊也 (学生担当) (同志社大学)

監事: 青木 伸文 (公認会計士・税理士)

監事: 平野 耕平 (弁理士・行政書士)

事務局: レーママン・ダニエラ (日本アジア振興財団 国際室)

運営: (一財)日本アジア振興財団

後援: フィリピン政府観光省

協賛: ぼてぢゅうグループ (東京フード・大阪フード)

(6) 団体連絡先 (財)日本アジア振興財団事務所内)

住所 〒530-0044 大阪市北区東天満 1-11-13 AXIS 南森町 10F

TEL 06-6351-6855 / FAX06-6809-1767 URL <http://www.japf.or.jp>

学生担当連絡先: 玉置俊也 (tamaki@japf.or.jp)



[ベニグノ・アキノ大統領と面談]



[在フィリピン日本大使館にて]



[現地TV局にて]

「インターンシップ・研修事業」について

～概要～

現在アジアで急成長を遂げており、世界第3の英語公用国として知られるフィリピンで、日本の学生を中心としたインターンシップ・研修を行います。インターンシップの分野では病院・介護施設の訪問や医療分野を専攻する学生との交流、レストランなどのサービス業の分野や、教育分野、社会分野、英語研修を行います。

～研修分野と研修内容に一部例～

教育	• 大学施設訪問 • 現地学生との交流
医療	• 医療施設・介護施設の訪問
サービス	• レストラン・ホテルでのインターンシップ
社会	• ごみ山の視察/スラム街の視察 • 孤児院訪問



〈ごみ山視察〉



〈現地子供たちと交流〉



〈病院訪問〉



〈孤児院訪問〉

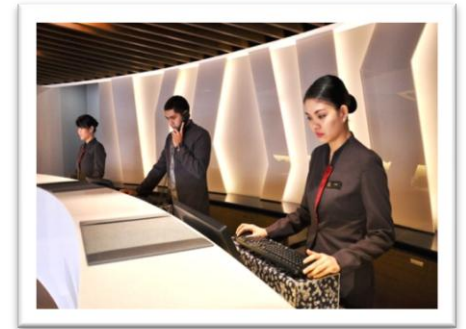


〈現地学生との交流〉

<サービス分野>

日本人からも人気の高いホテルでの宿泊者の管理やイベントの運営をはじめとした様々な業務を体験や、レストランでは飲食業の研修を行います。

訪問予定先：トレーダース・ホテルなど



<医療分野>



フィリピンで最高水準の医療と最新式医療機器を提供し、世界各国からの患者の受け入れを行っている病院や、介護・看護関連施設を訪問します。

訪問予定先：セイント・ルーク病院・ローズプリンセスホーム・ゴールデン・エーカーなど

<社会分野>

フィリピン各地で大きな問題となっているごみ山を視察します。20年という長い期間をかけてできあがったパヤタスのごみ山へ訪問します。

視察予定先：マニラ市内パヤタスのごみ山



<教育分野>



経済的な理由や、親を亡くしてしまった生活が困難な子供たち(5～17歳)を受け入れているマニラの孤児院を視察し子供たちと交流を深めます。またマニラ市内の大学に訪問を行い現地学生との交流を行います。

訪問予定先：SOS 孤児院・ラサール大学など